

令和1年度 第2回準デジタルアーキビスト資格取得講座参加報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班

松下 昌史

1. はじめに（目的等）

今年度から原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部にて被曝資料のデジタルアーカイブ化の業務に従事している。業務を開始するにあたりデジタルアーカイブに関する基本的な知識と技術を取得するために当該講座の受講と資格認定試験を受験した。

2. 期間・場所

期間：2019年7月7日（日）

場所：大阪府吹田市 株式会社 図書館流通センター（関西支社）

3. 参加者等

参加人数：23名（図書館・博物館・情報・メディア・出版関係・公務員等）

4. 研修内容

最初に岐阜女子大学教授によるデジタルアーカイブ概論と資料の選定のための評価と著作権、個人情報保護法、プライバシーに関する講義があり、デジタルアーカイブ化に際して必要な手続と注意点について詳細な説明があった。

午後からデジタルカメラの基本操作と撮影法、マルチコプター（ドローン）を使用した撮影について実習があった。市販の一眼レフカメラを使用したパノラマ撮影方法について講師による実演があり、具体的な操作法を学んだ。

実習後、デジタルアーカイブの活用方法として TRC-ADEAC 株式会社の担当者から説明があり、地域資料をデジタル化・公開するためのクラウド型プラットフォームシステムの紹介と、自治体及び各種団体が行っているデジタルアーカイブ化の最新事例について報告があった。講義終了後、資格認定試験（60分・30問）を受験して終了した。

5. まとめと感想

デジタルアーカイブについて重要なプロセスを学べた事は、被ばく資料のデジタルアーカイブとデータベース化に関して大いに参考になった。業務で取り扱う資料には個人情報が含まれている。デジタルアーカイブ化にあたり個人情報保護法の理解とともにプライバシーに関して今後より一層の配慮が必要と感じた。

さらに実習で学んだデジタルカメラの基本操作と撮影法は、技術センター業務で行う写真撮影に活用できる内容である。撮影技術の向上を図り、今後の業務（東広島植物園支援・広報WG）に反映したいと考えている。